

大切なのはやる気と情熱

高校生のための文化講演会

月刊誌
編集顧問

マッキー牧元さん

徳島市立高校と板野高校で開かれた「高校生のための文化講演会」(徳島新聞社、一ツ橋文芸教育振興会主催)。月刊誌「味の手帖」編集顧問のマッキー牧元さんが飲食業の面白さを紹介し、「大切なのは、やる気と情熱。職人たちの生き方に学ぼう」と呼び掛けた。

(田尾聡)

「タベアルキスト」職人として挙げたのがと称する牧元さんは年銀座のすし屋「すきや間600回も外食すばし次郎」の小野二郎さん。「おいしいもの、さん。有名店で、たくさん食べることが好き」とさんの若者が修業にやという理由でフードジャーナリストになった。り方が自分に合わないという理由で、すぐに辞める人



飲食業に携わる人々の魅力を語るマッキー牧元さん(徳島市の徳島市立高校)

職人の生き方に学ぼう

が少なくない。

牧元さんは「仕事に自分に合うか合わないかではなく、仕事に自分を合わせることで大切だ」との考えを小野さんから聞かされたことを紹介。仕事に対して、厳しい姿勢を貫く姿に感銘を受けたことを話した。

さまざまな人物取材する中で「職人には共通する五つの要素があることに気が付いた」とも述べた。日々の仕事に手を抜かない真面目さ、向上心、清潔感、やりたいことをやり抜く頑固さ、情熱。これらは米大リーグで活躍するイチローや元サッカー選手の中田英寿さんをインタビューした際にも感じたそう。で「料理やスポーツなど、多くの分野に通じる大切な心構え」と強調した。

さんの大らかさ、現役最高齢の赤坂の芸者として知られる青子さんの謙虚さにも触れた。森岡さんについては、客がビールをこぼしたときのエピソードを取り上げた。森岡さんの着物はぬれてしまったが、機転を利かせて「水も滴るいい女になった」と場をなごませたことを紹介。育子さんに関しては向上心を失わず、舞を披露し続けている姿を紹介しながら「常に上を目指すことが重要」と話した。

仕事を通じてさまざまな出会いを経験し、牧元さんは「何が一番好きかと聞かれたとき、おいしいものより人が好き」と思えるようになった。飲食業界には多くの魅力があり、「料理人のなり手は減っているが、明るくいる未来はある」と言葉清におかみ森岡清子に力を込めた。

感

想



穴田 大空さん(15)
徳島市立高1年

食文化に関するだけでなく、人としての生き方について学び、考えることができた。紹介されたおかみや料理人は、皆努力を重ね、それを継続している人ばかり。私もその姿勢を見習いたいと思った。



大西 真央さん(16)
徳島市立高1年

料理に対する揺るぎない信念を持った人々が、年齢を重ねても元気に働いていることを知って刺激を受けた。普段食べている料理にも、たくさんの方の思いが詰まっていることを知ることができて良かった。